

日本語教育学会 2017 年度第 4 回支部集会【中部支部】  
調査研究推進委員会コラボ企画「昼食交流会」  
**日本語教育縦断＋横断 ワールドカフェ**  
**—あなたのテーマ・私の課題：「日本語教育学」への誘い—**  
**開催報告**

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

開催日時：2017 年 7 月 8 日（土）12:15-13:15

会場：名古屋工業大学 第 52 号館 5214 教室

参加者：49 名

ワールドカフェ会場の様子

中部支部の第 4 回支部集会においては、調査研究推進委員会コラボ企画として、「日本語教育縦断＋横断 ワールドカフェ—あなたのテーマ・私の課題：



「日本語教育学への誘い」-」と題したワールドカフェを開催しました。

カフェでは、参加者が各国（大学・大学院、日本語学校、ビジネス日本語、地域日本語教室、日本語教育政策など）に分かれて、日本語教育学について意見交換を行いました。まず、母国において、日本語教育学会理念体系「樹形図」をもとに、自身の「テーマ・課題・活動・悩み」について付箋紙に書き出しながら話し合い、次に、1, 2 名が母国に残り、他の者が隣国を訪れ、それぞれの国のキーワードをもとに各国の情報を共有しました。その後、隣国を訪れていた者は、母国に戻り、隣国で得た情報を報告し、最後に、簡単な報告書用紙に活動で気づいた点などについて記入・提出しました。

ワールドカフェを実施した結果、さまざまな検討課題やそれをめぐるキーワードが提出されました。例えば、大学での日本語教育の目標と連携、研究と実践のインターフェイス、大学と社会で必要とされる日本語能力と各々のギャップ、大学や日本語学校内外での関係者の連携、などです。

ワールドカフェ全体での傾向として、どのカフェも所属先や職種の違いを超えて、専門家とボランティア、学内の他の教員との連携など、種々の問題の解決や緩和のためには、「立場が異なる者同士の協働の必要性」を強く意識した発言が多く見られたことが指摘できます。つまり、さまざまな局面や立場の異なる人同士の間で、ギャップや意識の相違があり、それらの溝を埋めなければ、質の高い教育の提供は難しいとまとめられます。以上のことから、今後の日本語教育学がより一層留意すべき重要な観点が改めて示されたと言えると思われました。

今回は多数の参加者を得て、盛況のうちに終了することができましたが、今後に向けては、全体の時間が 1 時間のみでしたので、各カフェにおける意見交換の時間が不足しないよう、さらに時間的余裕を十分にとった運営が必要であると思われました。

（文責：調査研究推進委員会）